

美術専攻 洋画研究領域

キョ テンチョウ

許 天暢



All those moments will be () in time I /
All those moments will be () in time II

造花、水彩紙、感熱紙、ガラス / 新聞紙、ガラス

All those moments will be () in time I / All those moments will be () in time II

今回の作品に私は「All those moments will be () in time」というタイトルを付けた。これは映画『ブレードランナー』(1982年)の台詞に由来する。原文は「All those moments will be lost in time」である。この後に続く「like tears in rain」という台詞の方がより有名だ。この言葉を選んだのは、経験と記憶に対する理解に非常に合致しているからだ。私はいつもネガティブに、あらゆるものが時間の流れに消え去ってしまうと思い、それならば今私たちがしていることはすべて意味を失ってしまうのだと感じている。

河原温の作品『百万年』のように、時間の尺度を百万年という単位に拡大すれば、毎日、毎年起きていることは、おそらく短い一行の数字にまとめられてしまうでしょう。何十億もの人々が生きてきた痕跡が完全に消え去ってしまうのなら、なぜ記録する必要があるのでしょうか？なぜ記念する必要があるのでしょうか。おそらくこれらの瞬間は単に時間の中に消えるだけでなく、別の答えを持っているのだろう。だから私は元の台詞を完全には使わず、観客がこの空白を埋めてくれることを願っている。

この作品は二つの部分から成り、一つはガラス製の箱で、比較的長期間保存可能なアーカイブを表している。私はそれを何層にも重ねた新聞紙の中に埋め込んだ。歴史は常に重要な事柄だけを残す。それらは選ばれ、遠く離れた手の届かない場所に置かれる。しかし他の事柄が重要でないわけではない。平凡な日常がなければ、歴史は今日まで続かなかっただろう。新聞はそうした日常の象徴だ。新聞にはもちろん日々の注目すべき話題が記されているが、それ以上に民生を反映した報道や、多くの「目立たない」読者投稿が掲載されている。

もう一つは比較的個人的な表現だ。ここにある三つの骨壺は、それぞれ祖父と祖母、そして私の猫に関係している。ガラスを焼成する際の温度は800度以上に達し、ほとんどの有機物は高温で灰となる。この特性を利用し、彼らに関連する三つの品々(祖父を弔う際に使う造花、祖母が描かれた絵、そして猫が最後に様々な検査と安楽死手術を受けた時の領収書)をガラスと共に窯に入れて焼成した。結果は言うまでもなく何も残らないが、それらは確かにこの作品の中に存在している。まるで過去の様々な経験のように、それらは物理的な形では保存されないかもしれないが、より軽やかで気づかれにくい形で私たちに影響を与え続けているのだ。